消化器系疾患

科目責任者　入　澤　篤　志
学年　６学年

Ⅰ．前　　文

本講義は，食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆道・膵臓の主たる疾患について，その病態・診断・治療の重要事項を中心に講義を行う。各々，内科・外科の両面から理解を深める内容となっており，病理の理解を深めることも重要なため１枠を設けている。全体的に国家試験対策を念頭においた内容であり復習は必須である。

なお，本講義はActive learningを取り入れており，事前学習資料を基にしっかりと予習してくることを求める。

Ⅱ．担当教員

内科学（消化器）	（入　澤　篤　志）
外科学（上部消化管）	（小　嶋　一　幸）
外科学（肝・胆・膵）	（青　木　　琢）
放射線医学	（曽　我　茂　義）
病理診断学	（石　田　和　之）
埼玉医療センター 消化器内科	（玉　野　正　也）

Ⅲ．学修の到達目標

講義や実習で履修した消化器病学の知識を整理し，成因，病態，検査，治療，予後などを総合的に理解して，医師国家試験に出題される一般問題，臨床問題に正答できるレベルの学力を修得する。

Ⅳ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前に３年時の臓器別講義の資料に目を通し，知識を整理し，不明の項目は教科書や参考書で確認する。また，消化器領域に関する過去の一次卒業試験問題や医師国家試験問題などを参照し，知識を整理する。事前学習に30分，事後学習に30分は必要である。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業形式（事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。）
２：ディスカッション，ディベート　３：グループワーク　４：実習，フィールドワーク　５：プレゼンテーション
６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	7	6	木	5	上部消化管良性疾患の診断と治療（内科）	内科学（消化器） 入　澤　篤　志	1
2		6	木	6	消化管腫瘍の診断と内視鏡的治療（内科）	内科学（消化器） 郷　田　憲　一	1
3		6	木	7	食道の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（上部消化管） 中　島　政　信	1
4		7	金	2	胆道疾患の診断と内科的治療（内科）	内科学（消化器） 入　澤　篤　志	1
5		7	金	3	胃・十二指腸の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（上部消化管） 小　嶋　一　幸	1
6		7	金	4	下部消化管の外科的治療と科学療法（外科）	外科学（上部消化管） 中　村　隆　俊	1

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
7	7	7	金	5	肝胆膵の画像診断	放射線医学 曽我茂義	1
8		7	金	6	ウイルス性感染/肝腫瘍の診断と内科的治療（内科）	内科学（消化器） 飯島　誠	1
9		10	月	1	自己免疫性/薬剤性/代謝性肝疾患の診断と治療（内科）	埼玉医療センター 消化器内科 玉野正也	1
10		10	月	2	炎症性腸疾患の診断と治療（内科）	内科学（消化器） 富永圭一	1
11		10	月	3	膵疾患の診断と内科的治療（内科）	内科学（消化器） 入澤篤志	1
12		10	月	4	肝疾患の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（肝・胆・膵） 青木　琢	1
13		10	月	5	胆膵疾患の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（肝・胆・膵） 青木　琢	1
14		10	月	6	消化器疾患の病理	病理診断学 石田和之	1

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験，受講態度等を総合的に評価する。評価の割合は，定期試験90％，その他10％とする。

但し，合格するには定期試験の成績が60点以上であることが必須である。

Ⅶ. 医師国家試験出題基準（平成30年版）における区分

必修－７－A－全項目

必修－７－E－全項目

必修－８－G, H－全項目

必修－９－F－①～③

必修－９－G, H, I, K, LO－全項目

必修－１2－F－全項目

総論（Ⅲ　人体の正常構造と機能）－５－A～D－全項目

総論（Ⅴ　病因,病態生理）－６－A～C－全項目

総論（Ⅵ　症候）－５－A～K－全項目

総論（Ⅶ　検査）－２－C－全項目

総論（Ⅶ　検査）－２－E－全項目

総論（Ⅶ　検査）－６－A, I, L, M, N, O, Q－全項目

総論（Ⅶ　検査）－７－A－全項目

総論（Ⅶ　検査）－７－B－⑥～⑩

総論（Ⅸ　治療）－２－F－⑤～⑨

総論（Ⅸ　治療）－４－A, B,C－全項目

総論（Ⅸ　治療）－５－A～D－全項目

総論（Ⅸ　治療）－７－A－①～④, ⑩

総論（Ⅸ　治療）－７－B－全項目

総論（Ⅸ　治療）－８－A－全項目

総論（Ⅸ　治療）－１0－A－⑥, ⑫, ⑬, ⑮

総論（Ⅸ　治療）－１2－G

各論（Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患）－１～11－全項目

Ⅷ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験問題の解答に関する解説をもってフィードバックする。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置く DP　　○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	